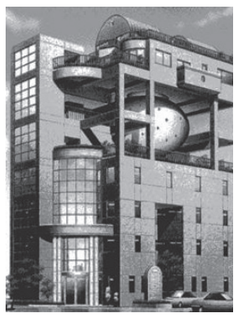
日本国民への提言 ㉖

日本の国民一人ひとりが、自らの「からだ」の「しくみ」を生かすことで、日本を再生する

たまご理論で病気のしくみを考える

たまごビル院長　石垣　邦彦



〒581-0061
大阪府八尾市春日町1-4-4
電話072（991）3398
FAX072（991）4498
ホームページアドレス
http://www.tamagobl.com/

大阪万博のメインテーマ

「いのち輝く未来社会のデザイン」Designing Future Society for Our Lives に提案する ③

大阪に万博を誘致する

2025年国際博覧会（万博）の大阪誘致計画を議論する政府の有識者検討会は3月13日、第3回会合を大阪市内で開き、開催テーマや関連経費などを盛り込んだ最終報告書案を決定しました。

開催テーマを「いのち輝く未来社会のデザイン」と設定。VR（仮想現実）やAI（人工知能）などの最新の科学技術を駆使した「常識を超えた万博」を打ち出しました。

テーマの英語表記は「Designing Future Society for Our Lives」

大阪府案の「人類の健康・長寿への挑戦」より広義にすることで、幅広い賛同を得る狙いがあります。

大阪府案の「人類の健康・長寿への挑戦」から、前回、政府の有識者検討会では

①「いのちを支える社会の創造」
②「共に輝く生命、輝き続ける地球」
③「人類の進歩と幸福の再考」
④「未来社会をどう生きるか」

の4案が提示され、今回「いのち輝く未来社会のデザイン」に決定しました。

わたしの言葉で表現すると、「いのち輝く未来社会のデザイン」の本質は「からだ」がスムーズに「はたらく」状態の「しくみ」＝「上腹部の柔軟度」（表1）がやわらかい状態にあります。「からだ」がスムーズに「はたらく」状態の「しくみ」＝「上腹部の柔軟度」（表1）がやわらかい状態を未来社会のデザインの基礎にすることです。

なぜなら、「からだ」がスムーズに「はたらく」状態の「しくみ」＝「上腹部の柔軟度」（表1）がやわらかい状態によって、その人のその時の「呼吸・循環・人体力学・自律神経・内臓全般の動き」がととのうため、「元気で生きれ・病気の予防ができ・的確な治療・ケアーとなり・穏やかな死に至る」ことができるからです（表2）。わたしが46年にわたる臨床研究から発見した「健康体と慢性疾患の関係」（図1）をみれば明らかです。

表1　健康体の三大特徴

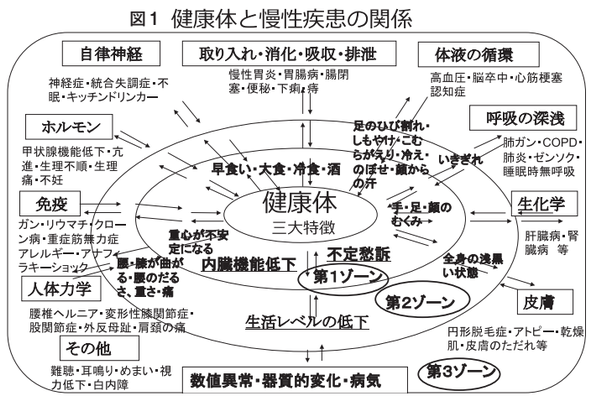
(1)「上腹部の柔軟度」＝腹部の柔軟度と形態と温度分布
「健康体」の場合、立位で上腹部が下腹部より少し低く手で上腹部を圧迫しても圧痛は無く、しこりもなく、その圧迫をとくとすぐに元に復する柔軟度があり適度な緊張がある。
また、腹部全体は温かくほぼ同一温度である。

(2)頭部と足先の温度差
「健康体」の場合、頭部が足先より約1度から3度高い範囲である。

(3)立位での姿勢
「健康体」の場合、正面からみると脊柱は正中線上でまっすぐであり、側面からみると生理的に適切なS字状の 湾曲を保ち、人体の各部位に余分な緊張と力の過剰な 負担がない

表2　人は楽しむために生まれてきた！
～人間の生死は「上腹部の柔軟度」が指標となる～

ROB治療で「上腹部の柔軟度」が正常化されると・・・
「入り出」がととのい、深く長くここちよい呼気ができる
↓
・呼吸が深くなり
・循環が良くなり
・人体力学が安定し
・自律神経がととのい
・内臓全般の動きが活発になる
↓
●生きる力がつく　⇒　生き方が身につく
●総合的免疫力がつく　⇒　予防ができる
●自然の治癒力がつく　⇒　治療が的確に
●自然なバランス力がつく　⇒　自然なケアー
●自然な死への流れができる　⇒穏やかな死
↓
■人間の体の自然な「しくみ」が生かされ
ROB治療で人生が統合される！！



前回の検討会に出席した世耕弘成経産相は「立候補する上で、世界中が共鳴できる課題や新たな社会の姿を問うテーマを提案する必要がある」と強調しましたが、「からだ」がスムーズに「はたらく」状態の「しくみ」＝「上腹部の柔軟度」がやわらかい状態を、未来社会のデザインの基礎にすることで、同じ「からだ」の「しくみ」をもつ全人類に、共鳴と共通の思いが生まれることになります。

VR（仮想現実）やAI（人工知能）などの最新の科学技術を駆使した「常識を超えた万博」を打ち出していますが、やはり未来社会にも核となるものは、40億年うちかって生まれたわたしたちの「からだ」です。

というのも、わたしたちの「からだ」が1000年や一万年のサイクルでは変わりないのが比較解剖学から見て明らかだからです。最新の科学技術では、新奇性があっても全加盟国の半数近くを占めるアフリカ・中南米諸国の支持を得ることはできません。

なぜなら、それらの国々にとってはVRやAIなどの最新の科学技術は、現実的な諸問題の解決策にはなりません。そんな新しさは必要がないのです。

アフリカ・中南米諸国の支持を得るには全人類共通の「からだ」がスムーズに「はたらく」状態の「しくみ」＝「上腹部の柔軟度」がやわらかい状態が、「生まれ・生きぬき・子孫を育て・老化し・死にゆく」ことをスムーズに運ぶ事実（表2）をつたえる必要があります。

そのことによって世界中の特にアフリカ・中南米諸国の共鳴と共感を得られることになるのです。

VRやAIなど、開発途上国とかけ離れた話題を持ち出しても共鳴と共感＝賛成を得ることはできません。それは開発途上国にとって絵に描いた餅なのです。

必要なことは「からだ」がスムーズに「はたらく」状態の「しくみ」＝「上腹部の柔軟度」がやわらかい状態の効能・効果（表2）を現在の開発途上国である特にアフリカ・中南米諸国に理解してもらい、未来社会のデザインをする上にも確かなものであることを伝える必要があります。

また、競争相手であるフランスのパリにも伝え、先進諸国を含めた世界中からその賛成を得るべきです。

これによって、開催地決定のカギを握るとされるアフリカ・中南米など開発途上国の賛同を得ることのみならず、競争相手であるフランスのパリをも飲み込む、つまり先進諸国の制度疲労による諸問題を解決することにもつないでゆくこともできます。

そのことそのものが、多くの国々から大阪万博への一票が投じられることになり、大阪万博の誘致が確かなものとなってきます。

わたしは、提案します。われわれ人類の「からだ」がスムーズに「はたらく」状態の「しくみ」＝「上腹部の柔軟度」がやわらかい状態を未来社会のデザインの基礎にすることによって、人類に大きな飛躍と安定が訪れることを。

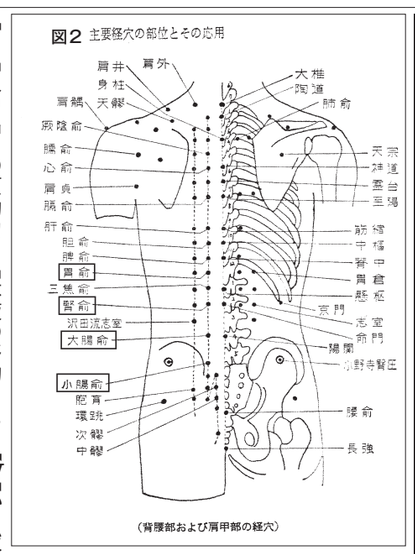
そのためにも、この連載で度々お話しさせていただいている「上腹部の柔軟度」と「呼吸・循環・人体力学・自律神経・内臓全般の動き」との関連を、特に人体力学との関連を再度深く、お話しさせていただきます。世の中が変わります。

《原始の単細胞の生命から人体力学に至るまで》

（「上腹部の柔軟度」と「人体力学」との関係を深める）

今までの臨床研究の流れを掲載し、

今回は、腰痛に至る原因が85パーセント不明だというその理由を、「上腹部の柔軟度」を通して解明してゆきます。



【Ⅰ「入り出」の原動力＝「体液の移動」による「体腔圧の変動」と人体の「正常機能・構造・形態」との関係】

【Ⅱ「体腔圧の変動」状態が「上腹部の柔軟度」の程度にあらわれ、人類の姿・形・動作と密接な関係がある】

【Ⅲ人体力学（姿勢と動作）発見に至る経緯について】

【Ⅳわたし自身の「からだ」の気づきについて（特に人体力学＝姿勢と動作の観点から）】

【Ⅴ妻の妊娠による「からだ」の変化が大きな発見につながる】

【Ⅵ胸腹（むねばら）とはどういう状態か】

【Ⅶ背中・腰・膝の曲がり、頚が回らない、すり足でないと歩けない、手が上がらないなどの姿勢と動作の異常は、「からだ」全体を守るための防御反応】

【Ⅷお腹を押さえた痛み＝腹部の圧痛と頚の緊張・背中・腰・膝の曲がりなどとの関係】

【Ⅸ腹部の圧痛を明確にする】

【Ⅹ引き続き腹部の圧痛について】

【Ⅺ日々の生活の中で片寄った動き・姿勢がないにもかかわらず、姿勢の異常・関節の変形・だるさ・痛みがなぜ出るのか】

【Ⅻあらゆる姿勢・動作と上腹部のくぼむ度合い＝上腹部の高低差には、相関関係がある】

【ⅩⅢ臨床研究例（仰臥位＝上向き）姿勢と腹部の圧痛】

【ⅩⅣ臨床研究例（立位＝立った状態）姿勢と腹部の圧痛】

【ⅩⅤ「からだ」の奥に潜む本質的な事項の確認】

【ⅩⅥ腰痛に至る原因が85パーセント不明だというその理由を解明する】

3月23日読売新聞朝刊の「医療ルネッサンス」―腰痛に負けないで―の欄で、腰痛はどのように分類されますか。との記者の問いに福島県立医科大学理事長兼学長菊地臣一先生は、一般読者に分かりやすく話されています。

①がんや感染症、骨折などの重い脊椎疾患がある腰痛

②足のしびれや脱力、感覚のまひなど神経症状を伴う腰痛

③原因がはっきりと特定できない腰痛に分け、③の非特異的腰痛は腰痛の85％を占めるというデータもあります。

と述べておられます。

ここで驚きなのは、原因がはっきり特定できない腰痛が85％もあることです。

なぜそうなのかを詳しく説明させていただきます。

一般的に腰痛の原因は、みなさん大なり小なりお分かりになると思います。日常生活の中で経験があるからです。その原因は

①中腰や前かがみでの作業が多く、正常な腰部の生理的湾曲（適度な前湾）が保持されず腰部が後弯するために腰部に物理的圧力がかかった場合。

②逆に、うつ伏せで長時間本を読んだ時のように、正常な腰部の生理的湾曲（適度な前湾）が保持されず、腰部の過度な前湾が長く続いたために腰部に物理的圧力がかかった場合。

③内臓の「はたらき」の低下がおこり、内臓体壁反射として腰痛がおこっている場合。

例えば、「はたらき」の弱い場合左第10～11腰椎の脊柱起立筋（図2）が固く膨隆して腰痛を起こす場合。

例えば、腎臓のはたらきが低下して、内臓体壁反射として、第2腰椎両側付近（図2）に鈍痛を訴える場合。

例えば、下痢・便秘のような腸の「はたらき」の弱っている場合、内臓体壁反射として第4腰椎付近（図2）に鈍痛がある場合。

例えば、下腹部の循環が悪く（生理不順・生理痛など）、内臓体壁反射として腰部から仙骨部（図2）に鈍痛がある場合。

など現代医学的には、ハッキリと原因が分からなくとも（これらの場合も非特異的腰痛となっているのではないでしょうか）臨床上は明らかに原因が特定できる腰痛の場合。

このような場合、患者さんにことの関係を説明すると「納得し」、ROB治療とともにROB理論にもとづく日常生活処方を実行することによって「からだ」が良い方向に変化し「腑に落ちる」ことになります。もちろん、患者・医療関係者双方に「違和感のない」医療が展開されます。

（腰痛に至る原因が85パーセント不明だというその理由を解明する）

問題は、医学的にも明らかでなく本人もその原因に対する自覚がないのに腰痛がある場合です。

例えば、胃・大腸ファイバーで異常がないけれども、腰痛がある場合です。これには一つのからくりがあります。胃・大腸ファイバーで分かるのは、胃腸の表面の一部分である粘膜のことだけです。そこにガン・ポリープ・潰瘍のような器質的変化がなければ異常なしとなるのです。

しかし、胃腸は粘膜だけで成り立っているわけではありません。粘膜は胃腸の一部です。こまったことに胃腸の「うごき」と「はたらき」が現代医学ではほとんどわかっていないということです。胃腸の「うごき」と「はたらき」の程度を推し量る確かなすべがないのです。

胃腸の正常な状態＝胃腸の「うごき」と「はたらき」がよい状態では、「上腹部の柔軟度」がやわらかい状態です。

（図3）で示すように

①上腹部がくぼむことによって

②下腹部にある「からだ」の中心に力が集中し、「からだ」全体の重心が安定します。

ところが非常に大事なことですが、この胃腸の「うごき」と「はたらき」が弱ると「上腹部の柔軟度」が固くなり、

（図4）で示すように

①上腹部がくぼまなくなり

②下腹部にある「からだ」の中心に力が集中せず「からだ」全体の重心が不安定になります。

それでは、生活に支障をきたすので「からだ」の各部分は膝を曲げ・腰を曲げ・頚を捻り・肘・手足のゆびなどを曲げ、「からだ」全体の重心を安定させようとします。

からだの各部分を曲げ、捻りを加えてでも全体的なバランスを取り、生活をしやすいようにしようとします。

前回に列挙した【ⅩⅤ「からだ」の奥に潜む本質的な事項の確認】の項目のなかの

○日常生活を快適におくるためには、

「呼吸・循環・人体力学・自律神経・内臓全般の動き」の「はたらき」がよい必要がある＝「上腹部の柔軟度」がやわらかい必要がある。

という原則を紹介しました。

つまり、生活しやすいように「からだ」全体の「はたらき」を保持するために、「からだ」の各部分の正常な「かたち」をくずし、各部分の正常な「はたらき」を低下させてでも「からだ」全体のバランスを取ろうとするのです。

この場合、胃・大腸のファイバー検査では異常がない→しかし胃腸の「うごき」と「はたらき」が低下しているため「上腹部の柔軟度」が固くなり→上腹部がくぼまないために→下腹部にある「からだ」の中心に力の集中ができない→「からだ」全体の重心が不安定になる→その不安定を安定させようとして膝・腰・頚を曲げる、股関節を捻るなど「からだ」の各部分が、「上腹部の柔軟度」をやわらかくし、「呼吸・循環・人体力学・自律神経・内臓全般の動き」を良くしようとする→カバーしすぎたところに物理的圧力がかかる（長時間の中腰・前かがみ・うつ伏せでの本読みと同じこと）→筋肉の重だるさ・関節の動きの制限などが生じる→長期間になると、痛み・しびれ・関節の変形となってくる。

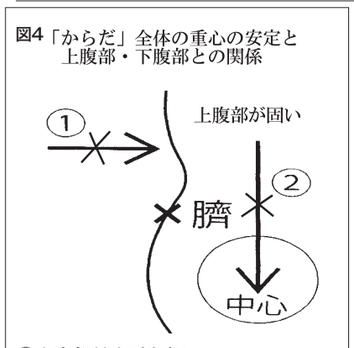
このような段階で腰痛なり他の部位の不都合な痛みなどが出てきて医療機関にかかるということになります。

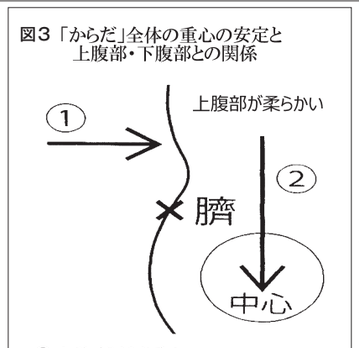
つまり、この場合本人もまさか、自分の胃腸の「うごき」と「はたらき」の低下が自分の腰痛の原因になっているとは思いもよりませんし、結果としての病気（この場合、腰痛・股関節痛・膝関節痛・頚部痛・肘関節痛手関節痛など整形外科的疾患）を部分的に診るシステムの中にいる医師もそのような視点はありませんので非特異的腰痛＝原因が分からないとなってしまうのです。

次回はさらに、その奥に潜むお話をさせていただきます。

心療内科でいう「失体感症」・「失感情症」と原因不明の腰痛との関係です。

「腑に落ちる」・「納得がゆく」・「違和感のない」医療が展開されてきます。もちろん、人間が生きてゆくには医療行為は一部分の現象です。医療だけでなく、生活全般も含めて「腑に落ちる」・「納得のゆく」・「違和感のない」展開が必要です。





ステラ・コーポレート株式会社
特別顧問　萩原　国博
Sutera Corporate
〒五四二―〇〇二一
大阪市中央区谷町九―二―二十九
TEL ○六―六七六八―八七二一
FAX ○六―六七六八―六七八九
携帯 ○九〇―七四九五―七七〇〇
E-mail（会社）info@sutera.co.jp
E-mail（個人）hagihara@sutera.co.jp

復活 山口レコード 館長 河内家菊水丸
河内音頭記念館

〒581-0003　八尾市本町７丁目12-24
ファミリーロード商店街内
☎(072) 995-1555
FAX (072) 995-1555
お近くにお越しの際には、是非お立ち寄り下さい
●館長 河内家菊水丸監修展示イベント開催中です●

あなたの街の葬儀社
八光殿 HAKKODEN
社葬、それは承継と決意の場です。
「後継者の志＝会社の未来」
社会的信頼・社内の結束・会社発展の為、
後継者による社葬の運営が大切です。
社葬の企画・運営は八光殿にお任せ下さい。
0120-39-8510

第４期最終分譲開始　大型公園墓地
八尾 普泉寺霊園
完全バリアフリー設計　大駐車場完備
八尾市福栄町３丁目５番地
お問い合わせは ☎072-996-1111 普泉寺霊園 検索